

ま　と　め

立山有料道路が走る弥陀ヶ原台地上では、標高1000mから1400mにかけて生育しているブナの衰退、標高1600mから2200mにかけて生育しているオオシラビソの衰退の問題があり、弥陀ヶ原湿原の池塘の減少や乾燥化が起きているのではないかという疑問も出ています。また、立山有料道路沿には平地植物の侵入が見られます。

ブナの衰退に関しては大気中のオゾンが関係していることが分かってきましたが、オオシラビソの衰退の原因については、いくつかの説はありますが、いまのところ不明です。弥陀ヶ原湿原の問題は原因を検討するための基礎調査が始まっています。平地植物の侵入に対しては除去作業が行われています。

立山にはこれらの生物学的な問題が見えますが、立山の生き物を取り巻く大気環境そのものは比較的良好と言えます。大気環境が良好な立山では、立山地域以外、例えば、近くの富山県平野部、関西や中京地域など富山県以外の日本国内地域、そして、遠くアジア大陸からやってきた大気が通過する時、それぞれの大気が持つ汚染の程度が良く見えます。

立山の大気環境と大気を動かす気象を調べ、水や大気の循環とそれに伴う物質循環の変化を解析することで、地球の大気環境の変化が見えてくるかもしれません。さらに、立山一帯は常願寺川をはじめとして富山県東部の河川に豊かな水を供給していることから、立山の環境変化がこれらの河川の水量や水質にどう関わるのかということも考えてみる必要があります。

